

議題1. 中期的リスクの低減目標マップにおける取組の進捗状況

- ・ 増設雑固体廃棄物焼却設備の運用におけるトラブルを踏まえ、リスク低減に影響がでないよう今後適切な調達管理を行うこと(1F規制事務所)
- ・ ALPSスラリー安定化処理設備におけるフィルタプレス機の小型化・簡素化について、後段の技術開発への影響についても検討すること(井口委員)
- ・ 滞留水素の調査・対応について、検討の進捗を説明すること(蜂須賀委員)
- ・ 瓦礫や高線量の固体廃棄物の屋外保管は早期に解消すべき(田中委員)
- ・ 審査が長期化しているものは共通の技術的課題(閉じ込め機能、耐震設計等)があることから、効果的に進めるために東京電力の体制を整えること(高坂オブザーバー)

- ・ 分析ニーズについて、早期に対応する必要がある廃棄物と燃料デブリを分けて、特定の施設に着目して具体的な分析計画を策定すること(原子力規制庁)
- ・ 廃棄物の適切な保管管理のあり方を平行して検討した上で、分析計画を策定すること(原子力規制庁)
- ・ 分析の第3者確認の仕組みも、分析組織を検討する際に含めるべき(井口委員)
- ・ 人材育成について、学生等に対し、どのようなキャリア・機会があるのか分かるように説明を行うべ

き(蜂須加委員、伴委員)

- ・ 分析に必要な人材について、具体的な積み上げが分かる定量的な説明を行うこと(高坂オブザーバー)

議題2. ALPS処理水の海洋放出時の運用等に係る実施計画変更認可申請の審査状況

- ・ なし

議題3. その他

＜海域モニタリングにおける魚のOBT分析値の検証について＞

- ・ 本分析についてもQMSの中に組み入れること(原子力規制庁監視課)
- ・ 測定の不確かさも示すこと(井口委員)
- ・ 新規の分析技術を取り入れる場合には、従来から実績のある分析機関と調整・比較を行うこと、分析体制の強化にも反映すること(高坂オブザーバー)

・ 本資料は、検討会において認識共有した内容をもとに作成し、ホームページに掲載しています。
なお、会議の進行と同時並行で作成しているため、正確な表現ではない部分があります。